

■ 生産不要物削減の取り組み

当社の生産不要物のリサイクル目標は、年度ごとにゼロエミッションを達成するとして、リサイクル活動を継続して来ました。ゼロエミッションの定義としては「産業廃棄物と有価物の合計重量比 99%以上とする」としています。残り 1%は最終処分場へ埋め立てされる重量割合を示しますが、本活動においてこれを完全に 0 にすることは多大な費用や CO₂ が消費され、環境への影

響はかえってマイナスになることが予想されます。従って当社としては、第 1 ステップとして、現実的な取り組みの中で達成に努めてきました。

2017 年度は、太田工場及びガスタービン工場、ニコ精密機器で目標を達成しました。新内工場及び鋳造工場では、目標を達成できずリサイクルの方法を検討しています。

	太田工場	新内工場	ガスタービン工場	鋳造工場	ニコ精密機器
産業廃棄物＋有価物量 t	885.8	534.3	107.2	907.9	243.9
再資源化量 t	881.8	401.7	107.1	818.7	243.3
リサイクル率 %	99.6	75.2	99.9	90.2	99.8

「全工場」における生産不要物バランス図（一般廃棄物も含む）



注）生産不要物＝産業廃棄物＋有価物＋一般廃棄物



事例：産廃物の分別による資源の有効活用（都内ビル案件の環境活動報告）

都心の中心部 大規模工事として新潟原動機が初めて経験した建設工事です。
常用ガスエンジン 12V28AGS × 2 台を納入して 2018 年 7 月引渡しとなります。

● オフィスビルの特徴

- 1) 国内最高水準の通信環境の整備による国際的なビジネスセンターの機能強化
- 2) 大手町地区の業務継続能力向上（災害時の業務継続を可能とする自立性の高い電源の導入として新潟原動機製のガスコージェネレーション）
- 3) うるおいのある快適な都市基盤の創出



計画イメージ図



建設途中の現場写真

大規模な建設工事では大量の産業廃棄物が発生するため、大手ゼネコンの環境へ対する取り組み方法工事関係者全員でゴミの分別徹底およびリサイクル率（目標値）を決めて対応しています。



目指せNo.1 プロジェクト



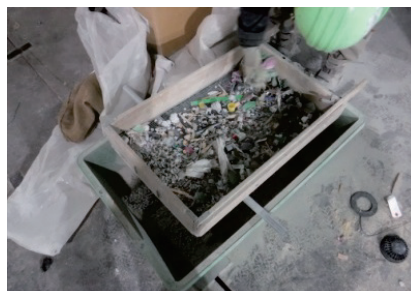
リサイクル率（86%目標）

実際の廃棄物分別は

- ・ 段ボールに着いたビニール製のテープはもとより鉄製のホッチキスも除去
- ・ 細かいゴミを篩にかけて砂やホコリも分別
- ・ 集めた砂やホコリの中からビニール繊維や細かい鉄くずを更に分別



ダンボール専用箱



細かいゴミ分別



砂、ホコリ、小さい鉄分別

分別ルールも徹底しており専任の管理者が常駐し産廃物を確認してゴミの分別管理と建築現場全体で、産業廃棄物をリサイクルし最終処分量を減量させる運動活動が徹底されています。

某案件工場の非常用ディーゼル発電機機関定期点検における産業廃棄物分別による環境にやさしい取り組み

● 事例：某案件工場内の産廃分別徹底による環境対応

(1) 環境活動の取り組み

メンテナンス時の場内産廃物分別徹底による環境対応については顧客殿と元請殿の指導のもとで環境活動の一環で実施している。

(2) 具体的実施状況

分別は、金属類、紙くず、木くず、廃プラスチック類、ゴム、ガスケット、繊維類、油脂類、汚泥類に、細かく分別し、さらにウエスを廃棄する時は油の染み込んだ物は油脂類、油の染み込んでいない物は繊維類として分別し廃棄する必要がある。

廃棄する際は、客先の廃棄物管理台帳に廃棄物の種類、総重量、個数を記入して廃棄物管理番号を採番し、所定の用紙に管理番号と種類を記入し袋に貼りつける。

金属類（小型）計量後に客先の指定袋に 20kg 以内に小分けし集積所に保管金属類（大型）計量後に客先の開口部養生を行い、指定場所に仮置きし保管その他分別ごみは計量後 10 kg 以内に小分けし、集積所に保管

(3) 取り組みによる成果

分別の細分化と計量による指定袋への小分けを実施することでゴミの減量意識と整理整頓意識が向上し、現場の4S全体が向上した。また、社会貢献意識も高揚することを期待する。

